※ポリシーとの関連性　現代社会における人間と環境の関わり合いを思想・哲学の主題として考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 エコロジーの思想	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 村井　忠康	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

今日では「地球にやさしい」といったフレーズがふつうに使われ、環境に配慮したゴミの分別回収なども、かなり厳しくおこなわれるようになっている。このように私たちは、環境問題の考慮抜きにしては成り立たない社会で暮らしている。この授業では、こうした私たちのあり方を、エコロジーの思想あるいは環境哲学の主題として捉えてきたさまざまな立場を概観する。

メッセージ

自然環境と社会環境はどう違うのか、現代ではもう区別できないのでは、といった疑問をもつ人、エコロジーばかり気にしていては社会が豊かにならないしと思う人もいるかもしれない。そういう人こそ、いっしょに「環境」や「豊かな社会」の意味について考えてみてほしい。

到達目標

①環境問題という具体的な問題が哲学・思想の主題になりうるのはなぜかを理解できるようになる。
②環境思想・哲学が私たち人間の生き方についての学問であることを理解できるようになる。
③環境問題について、具体例に即しつつも抽象的・概念的レベルで考えることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュールについて	シラバス・配布資料の確認
2	自然保護めぐる対立：保存か保全か	配布資料の熟読
3	環境哲学と環境倫理学	配布資料の熟読
4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
5	ディープ・エコロジー	配布資料の熟読
6	ソーシャル・エコロジー	配布資料の熟読
7	エコフェミニズム	配布資料の熟読
8	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
9	レポートの書き方	配布資料の熟読
10	和辻の風土論	配布資料の熟読
11	ベルクの風土論	配布資料の熟読
12	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
13	環境美学（1）	配布資料の熟読
14	環境美学（2）	配布資料の熟読
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読・レポート準備
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の二つを挙げておく。

尾崎周二・亀山純生・武田一博編『環境思想キーワード』、青木書店、2005年
上柿崇英・尾関周二編『環境哲学と人間学の架橋』、世織書房、2015年

学びの手立て

・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。
・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。

評価

リアクションペーパーの提出状況（40%）　学期末レポート（60%）
・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。コメントや疑問を積極的に記入することが求められる。
・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べることが求められる。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「環境の倫理学」、「哲学I」および「同Ⅱ」、「倫理学I」および「同Ⅱ」など。

※ポリシーとの関連性　環境と人間、そして動物の関わり合いから生まれる倫理的問題を考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 環境の倫理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 村井　忠康	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

環境の哲学は、応用倫理学の一分野としての環境倫理学から始まり、今やそれを含むほどの広い学問領域となりつつある。しかし、環境倫理学自体もまた、従来の環境問題だけなく、動物の権利の問題や、宇宙開発に伴う倫理的問題など、その射程は以前の枠組みに収まりきらなくなっている。現代の環境倫理学のもつこの射程の広さを理解することが、この授業のねらいである。

メッセージ

授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてみてほしい。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものである。また、これは環境倫理学の問題なのではと思われるテーマがあれば、積極的に伝えてほしい。授業の中で一緒に考えてみたい。

到達目標

①環境倫理学のさまざまな問題について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。
②環境倫理学は具体例に事欠かないが、自分でも問題ごとに適切な例を挙げることができるようになる。
③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、環境倫理学の問題について考えることができるようになる。
④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：この授業の概要とスケジュール	シラバス・配布資料の確認
2	環境倫理学の始まり：レオポルドの土地倫理	配布資料の熟読
3	人間非中心主義：テイラーの生物中心主義	配布資料の熟読
4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
5	動物倫理（1）シンガーとレーガンの種差別批判	配布資料の熟読
6	動物倫理（2）種差別批判に対するダイアモンドの批判	配布資料の熟読
7	シンガーのパーソン論	配布資料の熟読
8	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
9	レポートの書き方	配布資料の熟読
10	人間中心主義（1）自然の法的権利	配布資料の熟読
11	人間中心主義（2）ノートンの弱い人間中心主義	配布資料の熟読
12	環境プラグマティズム	配布資料の熟読
13	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
14	宇宙倫理学としての環境倫理学	配布資料の熟読
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読・レポート準備
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下のものを挙げておく。

高橋広次『環境倫理学入門』、勁草書房、2011年。

学びの手立て

・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。
・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。
・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってほしい。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立つ。

評価

リアクションペーパーの提出状況（40%）　学期末レポート（60%）
・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。授業内容についてのコメントや疑問を積極的に記入することが求められる。
・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べることが求められる。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「エコロジーの思想」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」など。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 キャンパスライフの心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金１	2
担当者 山岡　明奈	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

心理学の知識や技法、青年期に陥りやすい様々なリスクについて学ぶことで、大学生活への適応を目指します。

メッセージ

青年期は、子どもから大人への移行期であり、心や人とのかかわり方が大きく変化する時期だと言われています。また自分自身と向き合い、どのように生きていくかを主体的に決めていく時期でもあります。悩むことも行き詰ることも増えるかと思いますが、充実したキャンパスライフとなるよう、本講義を通して身に付けた心理学的な知識や視点を生かして欲しいと考えています。

到達目標

①大学生活への適応ができる
②青年期の特徴と悩みについて理解できる
③悩みやトラブルに対して対応策を考えることができる
④心理学の学びをキャンパスライフに生かす視点を養う

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	次回授業の予習
2	青年期の特徴：発達段階	次回授業の予習
3	アイデンティティ	次回授業の予習
4	自己分析	次回授業の予習
5	キャリア形成と結婚	次回授業の予習
6	青年期の人間関係：恋愛関係	次回授業の予習
7	青年期の人間関係：友人関係	次回授業の予習
8	ソーシャルサポート	次回授業の予習
9	自殺予防	次回授業の予習
10	詐欺と心理学	次回授業の予習
11	宗教・カルト・セクト	次回授業の予習
12	創造性	次回授業の予習
13	ストレスとコーピング：認知行動療法	次回授業の予習
14	ストレスとコーピング：マインドフルネス	次回授業の予習
15	まとめと期末レポートの作成	全講義の復習
16	予備日	全講義の復習

テキスト・参考文献・資料など

・教科書は特に指定せず，毎回配布する資料を中心に講義を進めます。

学びの手立て

・他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。
・毎回，授業の最後に課題を課します。課題はmoodleを用いて提出してください。
・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合，追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。

評価

・成績は，授業への参加態度（50%）と最終レポート（50%）で評価します。授業への参加態度は，毎回の課題の提出率や内容も評価対象となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・心理学Ⅰや心理学Ⅱを履修すると，本講義で扱った内容のより詳しい基礎的な知識を学ぶことができます。
・本講義で学んだ内容を，キャンパスライフや卒業後の人生に役立ててください。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	キャンパスライフの心理学	後期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡　明奈	１年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

心理学の知識や技法、青年期に陥りやすい様々なリスクについて学ぶことで、大学生活への適応を目指します。

メッセージ

青年期は、子どもから大人への移行期であり、心や人とのかかわり方が大きく変化する時期だと言われています。また自分自身と向き合い、どのように生きていくかを主体的に決めていく時期でもあります。悩むことも行き詰ることも増えるかと思いますが、充実したキャンパスライフとなるよう、本講義を通して身に付けた心理学的な知識や視点を生かして欲しいと考えています。

到達目標

①大学生活への適応ができる
②青年期の特徴と悩みについて理解できる
③悩みやトラブルに対して対応策を考えることができる
④心理学の学びをキャンパスライフに生かす視点を養う

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	次回授業の予習
2	青年期の特徴：発達段階	次回授業の予習
3	アイデンティティ	次回授業の予習
4	自己分析	次回授業の予習
5	キャリア形成と結婚	次回授業の予習
6	青年期の人間関係：恋愛関係	次回授業の予習
7	青年期の人間関係：友人関係	次回授業の予習
8	ソーシャルサポート	次回授業の予習
9	自殺予防	次回授業の予習
10	詐欺と心理学	次回授業の予習
11	宗教・カルト・セクト	次回授業の予習
12	創造性	次回授業の予習
13	ストレスとコーピング：認知行動療法	次回授業の予習
14	ストレスとコーピング：マインドフルネス	次回授業の予習
15	まとめ	全講義の復習
16	予備日	全講義の復習

テキスト・参考文献・資料など

・教科書は特に指定せず，毎回配布する資料を中心に講義を進めます。

学びの手立て

・他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。
・毎回，授業の最後に課題を課します。課題はmoodleを用いて提出してください。
・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合，追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。

評価

・成績は，授業への参加態度（50%）と最終レポート（50%）で評価します。授業への参加態度は，毎回の課題の提出率や内容も評価対象となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・心理学Ⅰや心理学Ⅱを履修すると，本講義で扱った内容のより詳しい基礎的な知識を学ぶことができます。
・本講義で学んだ内容を，キャンパスライフや卒業後の人生に役立ててください。

※ポリシーとの関連性　共通科目と学芸員資格取得の必修科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術学Ⅰ	前期	木５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本　寛史	１年	研究室（5433） huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

美術や芸術がどのように始まり、我々人間社会にどのような影響を与えて来たのかを西洋美術史（作品名、作家名、時代・様式、主義・主張など）を紐解きながらを学ぶことができる。また、芸術関係者による特別講義を通して美術館運営や学芸員の役割などを学ぶ。

メッセージ

世界文化遺産のピラミッドから始まり、人類が芸術にどう関わり、どう発展してきたか。また世界で名画と呼ばれる作品の謎や完成度などを紐解いて行く。

到達目標

1. 西洋美術における流れとその特徴を説明することが出来る。
2. ルネサンスにおける人間社会への参画について説明することが出来る。
3. 特別講義などを通して、美術館や学芸員の役割について説明することが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	シラバス確認（授業内容の確認と事前テスト、美術・芸術に関するテスト）	シラバスの確認（ゼミ内容確認）
2	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ピラミッドについて事前学習
3	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	エジプトの神々について事前学習
4	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ギリシャ彫刻について事前学習
5	エジプト・ギリシャ文明と代表的な作品（ピラミッドの謎、魅力など）	ギリシャ神話について事前学習
6	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ミケランジェロについて事前学習
7	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ダヴィンチについて事前学習
8	中世美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ラファエロについて事前学習
9	中間試験（確認テスト）	振り返り
10	特別講義（芸術関係者による講義）	特別講師について事前学習
11	仏教美術（宗教について）	宗教について事前学習
12	仏教美術（宗教について）	宗教について事前学習
13	北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	北欧・ボスについて事前学習
14	北欧美術（15世紀－16世紀ルネサンス）	ブリューゲルについて事前学習
15	前期のまとめ（振り返り）	振り返り（最終試験に向けて）
16	最終試験	教養として生活で活かす

テキスト・参考文献・資料など

レジメ、資料を配布する
1. 美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）
2. 美術検定

学びの手立て

日頃から芸術や美術に関心をもち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。

評価

中間テスト50%、最終試験50%で評価する。
事前テストは評価に含まない。

学びの継続

次のステージ・関連科目

学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。

※ポリシーとの関連性　共通科目であり、学芸員資格取得必修科目でもある。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術学Ⅱ	後期	木５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本　寛史	１年	研究室（5433） huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

芸術学IIでは、芸術学Iで習得した知識を踏まえ、西洋や日本、沖縄の芸術文化をさらに思弁的に学び、社会における芸術（美術、浮世絵、写真、現代アート）視覚メディアを幅広く学ぶことができる。

メッセージ

ルネサンス以降の西洋美術の発展と社会に与えたインパクを学び、西洋でも人気が高かった日本美術の傑作浮世絵なども紹介する。

到達目標

1. 近代史において西洋美術や日本美術の特徴や相互関係を説明することが出来る。
2. 美術史を踏まえ、幅広く芸術メディア（浮世絵、演劇、写真など）の特徴を説明することが出来る。
3. 芸術関係者の特別講義を通して、博物館や美術館の役割を説明することが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	シラバスの確認（授業内容確認など）事前テスト	シラバスの確認（ゼミ内容確認）
2	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	クールペについて事前学習
3	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	ミレーについて事前学習
4	西洋美術の動向と潮流（写実主義）	カミューについて事前学習
5	西洋美術の動向と潮流（ロマン主義）	ゴヤについて事前学習
6	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	モネ、ルノワールについて事前学習
7	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	モネについて事前学習
8	中間テスト	振り返り
9	特別講義（映画関係者）	特別講師について事前学習
10	浮世絵（歌麿、写楽）	浮世絵について事前学習
11	浮世絵（北斎、広重）	浮世絵とフランスとの関係
12	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	セザンヌについて事前学習
13	西洋美術の動向と潮流（印象主義）	ゴッホについて事前学習
14	現代芸術（芸術メディア（写真、現代アートなど）の動向と潮流）	ピカソについて事前学習
15	授業のまとめ（振り返り）	振り返り（最終試験に向けて）
16	最終試験	教養として生活で活かす

テキスト・参考文献・資料など

レジメ、資料を配布する
１．美術・芸術学関連参考文献（映像資料も含む）、２．美術検定

学びの手立て

芸術学I同様、日頃から芸術や美術に関心をもち、表現の素晴らしさに気づいて欲しい。

評価

中間テスト50%、最終試験50%で評価する。
事前テストは評価に含まない。

学びの継続

次のステージ・関連科目

学芸員に必要な基礎知識（とくに美術）を習得する。美術検定などにもトライして欲しい。

※ポリシーとの関連性　メディアを通して日本語によるコミュニケーションのありかたを検討し、コミュニケーションの新たな可能性を模索する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	コミュニケーション論	前期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小高　政彦	１年	メールにて受け付けます	

学びの準備

ねらい

近年コミュニケーション力が能力の一つとして捉えられる傾向があるが、その「コミュ力」の正体とはいったい何だろうか。
「情報社会」の視点と、情報の運搬役と見られている「メディア」の働きや関係性から読み解いてゆく。

メッセージ

コミュニケーションは人間関係の基本です。お互いに友好的かつスマートに関係性を築いていきたいと思っています。良好なコミュニケーションへのクリティカルパスを共に探していきましょう。

到達目標

①コミュニケーション学の基礎を理解する
②コミュニケーションにおける言語、非言語の意義を理解する
③日常におけるコミュニケーションのポイントを理解する
④メディアによるコミュニケーションの特徴を理解する
⑤インターネットを介したコミュニケーションのポイントを理解する
⑥メタバース上でのコミュニケーションの特徴を理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	01_オリエンテーション	
2	02_コミュニケーションとは	次回講義の予習
3	03_メディアのはたらき	次回講義の予習
4	04_非言語コミュニケーション	次回講義の予習
5	05_言語コミュニケーション①	次回講義の予習
6	06_言語コミュニケーション②	次回講義の予習
7	07_社会の変化とコミュニケーション・メデイアの展開	次回講義の予習
8	08_メディアにおける情報	次回講義の予習
9	09_仮想現実における「私」	次回講義の予習
10	10_新しいコミュニケーションの時代	次回講義の予習
11	11_時間を超える情報	次回講義の予習
12	12_メタバース①	次回講義の予習
13	13_メタバース②	次回講義の予習
14	14_メタバース③	次回講義の予習
15	15_メディアリテラシー	次回講義の予習
16	16_最終試験	全講義の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しません。毎回講義初めに必要資料を配布します。

参考文献
「メディア・コミュニケーション論」　編者：池田理知子 松本健太郎　ナカニシャ出版
「メタバース進化論」　著者：バーチャル美少女ねむ　株式会社技術評論社
「メディア・コミュニケーション論」　著者：矢島敬士　コロナ社

学びの手立て

・出席は毎回とります。
・積極的に講義に参加して下さい。

評価

・最終試験あります。
・出席時に書いてもらうコメントも評価に加味します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

コミュニケーションは一人で行うことはできません。
学校生活を通じて得た、「良き友人良き仲間」を思い浮かべながら講義にのぞんでください。
幅広い知識を習得し、豊かな人格形成を目指すことが多様なコミュニケーションへの近道です。

※ポリシーとの関連性　メディアを通して日本語によるコミュニケーションのありかたを検討し、コミュニケーションの新たな可能性を模索する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	コミュニケーション論	後期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小高　政彦	１年	メールにて受け付けます	

学びの準備

ねらい

近年コミュニケーション力が能力の一つとして捉えられる傾向があるが、その「コミュ力」の正体とはいったい何だろうか。
「情報社会」の視点と、情報の運搬役と見られている「メディア」の働きや関係性から読み解いてゆく。

メッセージ

コミュニケーションは人間関係の基本です。お互いに友好的かつスマートに関係性を築いていきたいと思っています。良好なコミュニケーションへのクリティカルパスを共に探していきましょう。

到達目標

①コミュニケーション学の基礎を理解する
②コミュニケーションにおける言語、非言語の意義を理解する
③日常におけるコミュニケーションのポイントを理解する
④メディアによるコミュニケーションの特徴を理解する
⑤インターネットを介したコミュニケーションのポイントを理解する
⑥メタバース上でのコミュニケーションの特徴を理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	01_オリエンテーション	
2	02_コミュニケーションとは	次回講義の予習
3	03_メディアのはたらき	次回講義の予習
4	04_非言語コミュニケーション	次回講義の予習
5	05_言語コミュニケーション①	次回講義の予習
6	06_言語コミュニケーション②	次回講義の予習
7	07_社会の変化とコミュニケーション・メデイアの展開	次回講義の予習
8	08_メディアにおける情報	次回講義の予習
9	09_仮想現実における「私」	次回講義の予習
10	10_新しいコミュニケーションの時代	次回講義の予習
11	11_時間を超える情報	次回講義の予習
12	12_メタバース①	次回講義の予習
13	13_メタバース②	次回講義の予習
14	14_メタバース③	次回講義の予習
15	15_メディアリテラシー	次回講義の予習
16	最終試験	全講義の復習

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定しません。毎回講義初めに必要資料を配布します。

参考文献
「メディア・コミュニケーション論」　編者：池田理知子 松本健太郎　ナカニシャ出版
「メタバース進化論」　著者：メディア・コミュニケーション論バーチャル美少女ねむ　株式会社技術評論社
「メディア・コミュニケーション論」　著者：矢島敬士　コロナ社

学びの手立て

・出席は毎回とります。
・積極的に講義に参加して下さい。

評価

・最終試験あります。
・出席時に書いてもらうコメントも評価に加味します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

コミュニケーションは一人で行うことはできません。
学校生活を通じて得た、「良き友人良き仲間」を思い浮かべながら講義にのぞんでください。
幅広い知識を習得し、豊かな人格形成を目指すことが多様なコミュニケーションへの近道です。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学Ⅰ	前期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡　明奈	１年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では，日常にあふれる身近な現象を，人間がどのように知覚，認識しており，心理学ではどのような理論で説明されているのかを講義します。本講義を通して，心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で，日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。

メッセージ

本科目の履修を希望する場合は，初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか，日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。

到達目標

①心理学という学問が，どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できる。
②人間の知覚，学習，記憶，認知，感情，動機づけに関する基礎的な知識を理解することができる。
③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	次回の授業の予習
2	心理学とは：心理学の歴史	次回の授業の予習
3	知覚心理学1：視覚	次回の授業の予習
4	知覚心理学2：聴覚、嗅覚、触覚、味覚のしくみ	次回の授業の予習
5	学習心理学1：条件付け	次回の授業の予習
6	学習心理学2：学習の促進と抑制	次回の授業の予習
7	記憶心理学1：記憶の過程	次回の授業の予習
8	記憶心理学2：記憶の種類と忘却	次回の授業の予習
9	認知心理学1：言語	次回の授業の予習
10	認知心理学2：思考	次回の授業の予習
11	感情心理学：情動	次回の授業の予習
12	動機づけと心理学：動機づけ	次回の授業の予習
13	脳と心理学1：神経細胞	次回の授業の予習
14	脳と心理学2：脳の構造	次回の授業の予習
15	まとめ	全講義の復習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

教科書は指定せず，毎回配布する資料を元に授業を行います。

学びの手立て

・他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。
・毎回，授業の最後に課題を課します。課題はmoodleを用いて提出してください。
・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合，追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。

評価

・成績は，授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は，毎回の課題の提出率や内容も評価対象となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・心理学Ⅱを履修すると，心理学Ⅰで学んだ内容との関連が見えてくるため，より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。
・心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで，心理学Ⅰで学んだ事に関する，より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学Ⅰ	前期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡　明奈	１年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では，日常にあふれる身近な現象を，人間がどのように知覚，認識しており，心理学ではどのような理論で説明されているのかを講義します。本講義を通して，心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で，日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。

メッセージ

本科目の履修を希望する場合は，初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか，日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。

到達目標

①心理学という学問が，どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できる。
②人間の知覚，学習，記憶，認知，感情，動機づけに関する基礎的な知識を理解することができる。
③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	次回の授業の予習
2	心理学とは：心理学の歴史	次回の授業の予習
3	知覚心理学1：視覚	次回の授業の予習
4	知覚心理学2：聴覚、嗅覚、触覚、味覚のしくみ	次回の授業の予習
5	学習心理学1：条件付け	次回の授業の予習
6	学習心理学2：学習の促進と抑制	次回の授業の予習
7	記憶心理学1：記憶の過程	次回の授業の予習
8	記憶心理学2：記憶の種類と忘却	次回の授業の予習
9	認知心理学1：言語	次回の授業の予習
10	認知心理学2：思考	次回の授業の予習
11	感情心理学：情動	次回の授業の予習
12	動機づけと心理学：動機づけ	次回の授業の予習
13	脳と心理学1：神経細胞	次回の授業の予習
14	脳と心理学2：脳の構造	次回の授業の予習
15	まとめと期末試験	全講義の復習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

教科書は指定せず，毎回配布する資料を元に授業を行います。

学びの手立て

・他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。
・毎回，授業の最後に課題を課します。課題はmoodleを用いて提出してください。
・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合，追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。

評価

・成績は，授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は，毎回の課題の提出率や内容も評価対象となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・心理学Ⅱを履修すると，心理学Ⅰで学んだ内容との関連が見えてくるため，より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。
・心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで，心理学Ⅰで学んだ事に関する，より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学Ⅱ	後期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡　明奈	１年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では，日常にあふれる身近な現象が，心理学の分野ではどのように研究され，どのような理論で説明されてきたのかを講義します。本講義を通して，心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で，日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。

メッセージ

本科目の履修を希望する場合は，初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか，日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。

到達目標

①心理学という学問が，どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できるようになる。
②人間の性格，発達，社会，臨床に関する基礎的な知識を理解することができる。
③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	次回授業の予習
2	心理学の研究手法とは？	次回授業の予習
3	人格心理学1：性格とは？	次回授業の予習
4	人格心理学2：性格の形成	次回授業の予習
5	発達心理学1：乳幼児期の発達	次回授業の予習
6	発達心理学2：児童・青年期の発達	次回授業の予習
7	発達心理学3：成人期・老年期の発達	次回授業の予習
8	社会心理学1：個人	次回授業の予習
9	社会心理学2：対人	次回授業の予習
10	社会心理学3：集団	次回授業の予習
11	社会心理学4：現代的問題	次回授業の予習
12	臨床心理学1：臨床心理アセスメント	次回授業の予習
13	臨床心理学2：心理療法	次回授業の予習
14	臨床心理学3：教育・医療・産業・司法における心理支援	次回授業の予習
15	まとめと期末試験	全講義の復習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・教科書は特に指定せず，毎回配布する資料を中心に講義を進めます。

学びの手立て

・他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。
・毎回，授業の最後に課題を課します。課題はmoodleを用いて提出してください。
・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合，追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。
・心理学Ⅰを受講していなくても，心理学Ⅱを受講することは可能です。

評価

・成績は，授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は，毎回の課題の提出率や内容も評価対象となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・心理学Ⅰを履修すると，心理学Ⅱで学んだ内容の背景に，どの様な心理学的・脳科学的メカニズムがあるかを学べるため，より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。
・心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで，心理学Ⅱで学んだ事に関する，より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学Ⅱ	後期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡　明奈	１年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では，日常にあふれる身近な現象が，心理学の分野ではどのように研究され，どのような理論で説明されてきたのかを講義します。本講義を通して，心理学という学問の特徴と限界について正確に把握した上で，日常の現象を心理学的な視点で説明できるようになることを目指します。

メッセージ

本科目の履修を希望する場合は，初回授業に必ず出席してください。心理学がどのような学問領域であるのか，日常生活とどのように関連付けることができるのかを一緒に学んでいきましょう。

到達目標

①心理学という学問が，どのような特徴と限界を持った学問かを適正に理解できるようになる。
②人間の性格，発達，社会，臨床に関する基礎的な知識を理解することができる。
③日常生活における身近な現象を心理学の視点から説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	次回授業の予習
2	心理学の研究手法とは？	次回授業の予習
3	人格心理学1：性格とは？	次回授業の予習
4	人格心理学2：性格の形成	次回授業の予習
5	発達心理学1：乳幼児期の発達	次回授業の予習
6	発達心理学2：児童・青年期の発達	次回授業の予習
7	発達心理学3：成人期・老年期の発達	次回授業の予習
8	社会心理学1：個人	次回授業の予習
9	社会心理学2：対人	次回授業の予習
10	社会心理学3：集団	次回授業の予習
11	社会心理学4：現代的問題	次回授業の予習
12	臨床心理学1：臨床心理アセスメント	次回授業の予習
13	臨床心理学2：心理療法	次回授業の予習
14	臨床心理学3：教育・医療・産業・司法における心理支援	次回授業の予習
15	まとめと期末試験	全講義の復習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・教科書は特に指定せず，毎回配布する資料を中心に講義を進めます。

学びの手立て

・他の受講生の迷惑になる行為（私語，遅刻，途中退出等）は控えてください。
・毎回，授業の最後に課題を課します。課題はmoodleを用いて提出してください。
・COVID-19対策等の都合で全学的に追加履修登録が認められない状況である場合，追加履修に関する問い合わせをいただいても対応しかねます。
・心理学Ⅰを受講していなくても，心理学Ⅱを受講することは可能です。

評価

・成績は，授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は，毎回の課題の提出率や内容も評価対象となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・心理学Ⅰを履修すると，心理学Ⅱで学んだ内容の背景に，どの様な心理学的・脳科学的メカニズムがあるかを学べるため，より深く人間の心理・行動を理解できるようになります。
・心理カウンセリング専攻が開設している専門科目を履修することで，心理学Ⅱで学んだ事に関する，より詳しい内容や最新知見を学ぶことができます。

※ポリシーとの関連性　世界（沖縄）の多様な女性（男性・ジェンダー）文化理解のための科目（前期と後期）を提供　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 女性と文化	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火１	2
担当者 -粟国　恭子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	授業内容の質問などは授業終了後にポータル返信メッセージ（かE- mail）で受け取る	

学びの準備

ねらい

社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割〉であるジェンダー概念の理解と、女性(ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。

メッセージ

この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女＞とは？を再考してください。

到達目標

社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割〉であるジェンダー概念の理解と、女性(ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（１−３週目）。〈産む性＞につても社会システムである「婚姻」や〈母性＞概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら〈女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11〜15週）。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ジェンダーとは何か　文化的性差の概念・「LGBT」を理解する	〈性差〉について調べる
2	女性研究の流れ①　女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する	ジェンダー研究文献①②を確認
3	女性研究の流れ②　沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する	沖縄の女性研究文献③を確認する
4	婚姻と文化①　世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する	世界の婚姻制度について調べる
5	婚姻と文化②　変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する	性・生殖革命について調べる
6	生む性　〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念	ルソーの著作や参考文献⑤⑥
7	文化に管理される身体①　〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観	〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
8	文化に管理される身体②　両義性の身体　ネパールのクマリ信仰を事例に	ネパールの信仰について調べる
9	文化に管理される身体③　〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち	沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
10	文化に管理される身体④　インドのダウリ―やアフリカのFGM、身体加工	身体と人権の問題を考える
11	沖縄の女性と文化① 現代の婚姻と伝統文化(離婚・家督相続・ユタ）問題	『沖縄県史 女性史編』を読む
12	沖縄の女性と近代　異なる文化接触と評価 風俗改良(風土・身体・戦争)	『沖縄県史 女性史編』を読む
13	女性と文化表象? 沖縄の女性への「まなざし」民藝一行が取り撮らなかった＜沖縄の女性＞	柳宗悦、坂本万七の仕事をかくにん
14	文化と女性表象?　文學・映像と女性文化一沖縄の女性イメージと作品論（映画・写真集）	沖縄の映画作品などを調べる
15	文化と女性の技術　戦後の女性と技術―ミシンをめぐる沖縄文化史一	女性の技術を確認
16	テスト	「課題（テスト）の準備」

テキスト・参考文献・資料など

特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。状況によって遠隔授業実施の際はポータル授業連絡でレジュメ（PDFファイル）を添付するため学生は各自でダウンロードすること。①アードナーほか『男が文化で女は自然か？―性差の文化人類学』（晶文社､1987年）②マーガレット・ミード『男性と女性』（東京創元社、1981年）③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社、2005年）⑤バタンテール『母性という神話』（ちくま文庫）⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』(2016）ほか講義でも重要な参考文献（など）紹介

学びの手立て

「履修の心得え」として、以下を注意してください。
・出欠確認を毎回とります。
・授業での疑問・質問を積極的してもらいたい。

評価

「評価方法・割合」期末試験（ポータルシステム利用）60%、講義参加の感想レポート40%
「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記と共に「女性と文化」理解認識について評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目　「女性と歴史」や「フェニミズム思想」や務多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通した女性への理解が深まる。（２）次のステージ　ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。

※ポリシーとの関連性　世界（沖縄）の多様な女性（男性・ジェンダー）文化理解のための科目（前期と後期）を提供　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 女性と文化	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火１	2
担当者 -粟国　恭子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	基本は対面形式。授業内容の質問などは授業了後に受け付ける	

学びの準備

ねらい

社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割〉であるジェンダー概念の理解と、女性(ジェンダー）と文化研究の展開を確認していく。ジェンダーに関わる文化要素の事例確認することで、社会における〈男〉と〈女〉のあり様は、生物学的な差異に基づきながら社会や時代によって異なり、かつ多様であることを学ぶ。沖縄社会のジェンダーのテーマに触れる。

メッセージ

この講義をきっかけに、男らしさや女らしさや性の役割は時代や文化によって異なることを理解する視点（ヒント）を得て、自分自身が捕えている持つ〈男〉とは？〈女＞とは？を再考してください。

到達目標

社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割〉であるジェンダー概念の理解と、女性(ジェンダー）と文化研究（沖縄を含む）の展開を確認していく（１−３週目）。〈産む性＞につても社会システムである「婚姻」や〈母性＞概念〈子供〉概念、〈女〉であることで社会・文化に管理される身体論の事例などを確認しながら〈女ながら多様さを確認する。ジェンダー研究の基本を確認にした後に沖縄社会・文化の〈女〉のあり様（特徴）を知り、多角的な理解が必要であることを確認する（11〜15週）。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ジェンダーとは何か　文化的性差の概念を理解する	〈性差〉について調べる
2	女性研究の流れ①　女性と文化・ジェンダー研究史の議論の流れを確認する	ジェンダー研究文献①②を確認
3	女性研究の流れ②　沖縄の女性と文化研究のあり様を確認する	沖縄の女性研究文献③を確認する
4	婚姻と文化①　世界の民族社会における婚姻制度の多様性を確認する	世界の婚姻制度について調べる
5	婚姻と文化②　変化した現状の性・婚姻・出産のあり様と課題を確認する	性・生殖革命について調べる
6	生む性　〈母性〉・〈子供〉の発見、多様な概念	ルソーの著作や参考文献⑤⑥
7	文化に管理される身体①　〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観	〈不浄〉〈ケガレ〉の意味を調べる
8	文化に管理される身体②　〈ケガレ〉・〈聖〉観と身体観　ネパールの埋まり進貢	ネパールの信仰について調べる
9	文化に管理される身体③　〈ケガレ〉無き女性・沖縄の民俗信仰と女性たち	沖縄の民俗信仰の特徴を調べる
10	文化に管理される身体④　インドのダウリ―やアフリカのFGM、身体加工	身体と人権の問題を考える
11	沖縄の女性と文化①　現代の婚姻と伝統文化(離婚・家督相続・ユタ）問題	『沖縄県史　女性史編』を読む
12	沖縄の女性と近代　異なる文化接触と評価　風俗改良(風土・身体・戦争)	『沖縄県史　女性史編』を読む
13	文化と女性表象?　沖縄女性への「まなざし」民藝一行が撮り、撮らなかった〈沖縄の女性〉	戦前の沖縄のポスター雑誌を確認
14	文化と女性表象?　映像と女性文化一沖縄の女性イメージと作品論（映画・写真集）	沖縄の映画作品などを調べる
15	沖縄の女性技術文化　戦後沖縄の女性の技術文化ーミシンをめぐる文化史―	女性と技術と文化を確認する
16	テスト	「課題（テスト）の準備」

テキスト・参考文献・資料など

特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。状況によって遠隔授業実施の際はポータル授業連絡でレジュメ（PDFファイル）を添付するため学生は各自でダウンロードすること。
〈参考文献〉①アードナーほか『男が文化で女は自然か？―性差の文化人類学』(晶文社､1987年)②マーガレット・ミード『男性と女性』(東京創元社、1981年)③伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』④田中雅一ほか編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』(世界思想社、2005年)⑤バタンテール『母性という神話』(ちくま文庫)⑥フリップ・アリエス『子供の誕生』（みすず書房）⑦『沖縄県史女性史編』(2016）ほか講義でも重要な参考文献など紹介

学びの手立て

「履修の心得え」として、以下を注意してください。
・基本は対面講義で実施する。出席は毎回とります。なお、状況によっての遠隔講義の際にも、出欠確認はポータルでの授業連絡の学生による返信コメントで毎回行う。学生はやむを得ず遅刻・欠席する場合は、連絡を入れること。
・授業での疑問・質問を積極的してもらいたい。

評価

「評価方法・割合」期末試験（ポータルシステム利用）60%、講義感想質問レポート40%
「評価基準」期末試験においては、ジェンダー関係の情報理解だけではなく、文化を通して捉える女性のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身のジェンダー観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記と共に「女性と文化」理解認識について評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

?関連科目　多様な人間の社会や文化を扱う「文化人類学」や女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、文化を通した女性への理解が深まる。
（２）次のステージ　ジェンダーについて人文・社会科学科目だけではなく文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。

※ポリシーとの関連性　多様な沖縄・東アジアの「女性と歴史」を学ぶことで、現在・未来の社会における人権、男女共生へ必要な豊かな認識を提供する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	女性と歴史	後期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-粟国　恭子	１年	基本対面授業実施。授業の質問などは授業終了後にポータル絡返信メッセージで受ける	

学びの準備

ねらい

従来の「歴史」（義務教育も含め）を捉える際、男性中心的な傾向が強かった。しかし各時代各社会で多様女性達が生きて「歴史」を刻んできた。社会的・文化的性別（社会が規定する〈男・女〉の役割〉であるジェンダー概念の視点から琉球・沖縄の女性達の歴史を中心に、東アジア・日本の歴史と比較しながら琉球国時代、近代から現在の女性達の歩みを確認して、「歴史認識」を考える。

メッセージ

この講義をきっかけに、従来の男性中心傾向の強い「歴史認識」について何故こうした構造がうまれたのか深く考えてみよう。また日本史でも触れる事の少ない沖縄の女性達の歴史を学ぶ機会は少ない。各時代で社会の半数を占めている多様な女性たちの歩んだ時間・「歴史」を学び・理解する視点（ヒント）を得ることで、自分自身の「歴史認識」を再考し豊かな視点を獲得してください。

到達目標

従来の男性中心的な「歴史認識」のあり様とジェンダー概念を確認し、「女性と歴史」を捉える視点の変化を理解できる（①～②、④）。琉球国時代の女性達のあり様（③）、時代政策と女性の役割を宗教、性、産業から捉える（④～⑥）ことで多様な歴史テーマを知ることができる。近代の女性・戦時下の女性・占領下の女性の歴史（⑨～⑬）を学ぶことで、義務教育で学んだ歴史に加えより一層各時代の歴史を深くとらえる事が出来る。女性の人権・男女平等・フェミニズム運動の実践のあり様を知る（⑭）これまでの「女性と歴史」の取りこぼされた「マイノリティー」の存在とテーマを知り、今後の課題を確認し（⑮）、現代・未来へどのような人権、男女共生への取り組みを踏まえた豊かな「歴史認識」を知ることができる。全体で沖縄の祖先、母、女たちの歩みを知ることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	「女性と歴史」の視座：従来の「歴史認識」傾向と「ジェンダー」概念を確認する	文献①～③を確認しておく
2	「女性史」と歴史・記述の変化。20世紀から21世紀にどの様な「歴史認識」変化	文献①～③を確認しておく
3	国（18世紀以前）と女性の「性」：社会階層、婚姻制度、産む「性」	琉球国の歴史を確認しておく
4	ジェンダー・ポリティクス①国策（琉球王府、近代）の宗教政策における「公認と排除」	琉球国の宗教政策を調べておく
5	ジェンダー・ポリティクス②殖産政策と島々の女性が産み出したもの	殖産政策について調べておく
6	ジェンダー・ポリティクス③国策と＜性＞（辻遊郭、「慰安婦」、「モトシンカカランヌ」	文献④⑤を確認しておく
7	女性の近代①国家の変化は女性たちに何をもたらしたのか（近世から近代）	近代国家・日本の歴史の基礎を確認
8	女性の近代②　「家族」・「家」・「位牌祭祀（トートーメー」継承	文献④～⑦を確認しておく
9	戦争と女性①　戦時下で画一される女たち、女たちの戦争とは	文献④～⑦を確認しておく
10	戦争と女性②　日常・暮らしの中の女たち	文献④～⑦を確認しておく
11	占領下の女性①　終戦直後の社会・生き残った女たちの歩み（異種混交的時間）	文献④～⑦を確認しておく
12	占領下の女性②民主化と女性の活動（政治、教育、商い、子育てなど）	文献④～⑦を確認しておく
13	占領下の女性③　労働で生み出したモノ（パイナップル、ミシン、工場、基地）	文献④～⑦を確認しておく
14	現代の女性達①フェミニズム思想・運動・人権・政治参加	フェミニズム思想・運動を確認
15	歴史の中のサバルタン（subaltern）：「女性と歴史」に取り上げられない課題	サバルタン研究を調べておく
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布。状況によって遠隔授業実施の際は、ポータル授業連絡にレジュメ添付する。
〈参考文献：〉①「歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界」（御茶の水書房）②新編日本のフェミニズム―女性史・ジェンダー史」岩波書店、③「ジェンダーから見た日本史」大月書店 ④伊波普猷・真境名安興『沖縄女性史』⑤『沖縄県史女性史編』(2016) ⑥『なは女性史前近代～現代』全３巻、⑦堀場きよ子『沖縄女性史―イナグヤナナバチー』、ほか講義でも重要な参考文献など）は紹介する。

学びの手立て

「履修の心得え」として、以下を注意してください。
・出欠確認を毎回行う。ポータル授業連絡での返信コメントを利用して出席授業参加を確認する。学生は、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、連絡すること。
・授業での疑問・質問を積極的してもらいたい。＊「学びを深めるために」講義内容のより深い理解のために、「女性史」「ジェンダー関係」「フェミニズム」思想などのテーマで文献や情報収集など積極的にしてほしい。

評価

「評価方法・割合」期末試験（ポータル返信システム利用）60%、平常の講義感想質問レポート40%
「評価基準」期末試験においては、講義内容と関連したテーマで「女性と歴史」を通して捉える東アジアや日本・沖縄の女性と時代のテーマを、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の「歴史認識」が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「関連科目」　多様な社会や文化や歴史と＜女性＞を扱う「女性と文化」、「フェミニズム思想」、「文化人類学」、女性の生活文化と関りが深い「民俗学」や沖縄文化関係などの科目をとることで、「女性と歴史」の認識・理解が深まる。（２）次のステージ　沖縄や日本・東アジアの女性達が生きた時代の歴史経験を、歴史だけでなく人文・社会科学分野の文化研究や文学や芸術・美術などの領域の実践・展開など幅広く学んでほしい。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 世界の歴史Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 -大浜　聖香子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本講義は世界史の講義です。世界史では世界の様々な地域の文化的枠組みがどのように形成され、変化してきたのか、また世界の諸地域の関係が現在のようになったのはなぜか、という大きな問いを掲げながら、諸地域や時代の具体的な展開を学びます。

メッセージ

世界史の講義を通じて、皆さんが世界の歴史を通してそこに生きた人々の幸せ、喜び、悲しみ、怒りを思い浮かべながら、これから生きてい世界での課題を見出し。その解決の手がかりをつかみ、自信を持って未来に踏み出してほしいというのが本講義の願いです。

到達目標

（１）世界史に関する基本的な知識を習得し、特定の歴史事象について論理的に説明できる。
（２）過去の出来事を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。
（３）歴史に関係する資料や文献を分析・読解し、その結果を表現できる。
（４）時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス～オリエントと地中海世界	配布資料の熟読
2	アジア・アメリカの古代文明	配布資料の熟読
3	内陸アジア世界・東アジア世界の形成	配布資料の熟読
4	イスラーム世界の形成と発展	配布資料の熟読
5	ヨーロッパ世界の形成と発展	配布資料の熟読
6	内陸アジア世界・東アジア世界の展開	配布資料の熟読
7	アジア諸地域の繁栄	配布資料の熟読
8	近世ヨーロッパ世界の形成	配布資料の熟読
9	近世ヨーロッパ世界の展開	配布資料の熟読
10	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	配布資料の熟読
11	欧米における近代国民国家の発展	配布資料の熟読
12	アジア諸地域の動揺	配布資料の熟読
13	帝国主義とアジアの民族運動	配布資料の熟読
14	二つの世界大戦	配布資料の熟読
15	冷戦と第三世界の独立～現代の世界	配布資料の熟読
16		

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しません。毎回の授業前日までに沖国大ポータルの授業連絡に授業で用いるレジュメをアップロードするので、各自ダウンロード・印刷して授業に臨んでください。
参考書・参考資料等　『世界史Ｂ』山川出版社

学びの手立て

「履修の心得え」として、以下を注意してください。
・出欠確認を毎回行う。毎回授業の最後に記入するリアクションペーパーの提出をもって出席とする。
・毎回の授業前日までに沖国大ポータルの授業連絡に授業で用いるレジュメをアップロードするので、各自ダウンロード・印刷して授業に臨んでください。

評価

平常点（30%）　学期末レポート（70%）
・毎回授業の最後にリアクションペーパー記入の時間を設ける。

学びの継続

次のステージ・関連科目

歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅰ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方を多様な観点から学ぶ人間文化科目群の科目

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 世界の歴史Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 -大浜　聖香子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

本講義は中世フランス史の講義です。本講義ではフランスという国の文化的枠組みが中世という時代にどのように形成され、変化してきたのか、また現在のようになったのはなぜか、という大きな問いを掲げながら、中世フランスの時代や具体的なテーマを学びます。

メッセージ

中世フランス史の講義を通じて、皆さんがそこに生きた人々の幸せ、喜び、悲しみ、怒りを思い浮かべながら、これから生きてい世界での課題を見出し。その解決の手がかりをつかみ、自信を持って未来に踏み出してほしいというのが本講義の願いです。

到達目標

（１）中世フランス史に関する基本的な知識を習得し、特定の歴史事象について論理的に説明できる。
（２）過去の出来事を、当事者の立場に立って考え、自分の言葉で表現できる。
（３）歴史に関係する資料や文献を分析・読解し、その結果を表現できる。
（４）時間外学習に主体的に取り組み、「考える歴史学」を学ぼうとする姿勢を有することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション：フランスという国	配布資料の熟読
2	ローマ帝国支配下のフランス―ローマ属州ガリア―	配布資料の熟読
3	フランク王国時代のフランス	配布資料の熟読
4	フランク王国時代のフランス	配布資料の熟読
5	カペー朝―封建時代のフランス	配布資料の熟読
6	カペー朝―封建時代のフランス	配布資料の熟読
7	百年戦争時代のフランス	配布資料の熟読
8	百年戦争時代のフランス	配布資料の熟読
9	中世フランスの社会―都市と産業―	配布資料の熟読
10	中世フランスの社会―都市と産業―	配布資料の熟読
11	中世フランスの社会―家族・共同体・身分―	配布資料の熟読
12	中世フランスの社会―家族・共同体・身分―	配布資料の熟読
13	中世フランスのキリスト教	配布資料の熟読
14	中世フランスのキリスト教	配布資料の熟読
15	中世フランスの思想・文化・心性	配布資料の熟読
16		

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しません。毎回の授業前日までに沖国大ポータルの授業連絡に授業で用いるレジュメをアップロードするので、各自ダウンロード・印刷して授業に臨んでください。
参考文献
・福井憲彦編　『新版世界各国史12　フランス史』　山川出版社、2001年。
・柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編　『世界歴史大系　フランス史１―先史～15世紀―』　山川出版社、1995年。

学びの手立て

「履修の心得え」として、以下を注意してください。
・出欠確認を毎回行う。毎回授業の最後に記入するリアクションペーパーの提出をもって出席とする。
・毎回の授業前日までに沖国大ポータルの授業連絡に授業で用いるレジュメをアップロードするので、各自ダウンロード・印刷して授業に臨んでください。

評価

平常点（30%）　学期末レポート（70%）
・毎回授業の最後にリアクションペーパー記入の時間を設ける。

学びの継続

次のステージ・関連科目

歴史をより多面的に理解するために、「世界の歴史Ⅰ」「日本の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」等を履修した上で、「人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ」を修得することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　人間のあり方について、日常的な場面から疑問を立ち上げて哲学的に考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	哲学Ⅰ	前期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井　忠康	１年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

哲学において議論されてきたさまざまな問題について、身近な例に即して考える。取り上げる問題はいまなお未決の問題ばかりだが、だからこそ、自分で考える意義があるとも言える。哲学の問題に触れながら、日々当たり前と思っている常識をいったん疑い、吟味することを通じて、主体的かつ論理的に考える能力を養うことが、この授業のねらいである。

メッセージ

授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてほしい。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものである。

到達目標

①さまざまな哲学的立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。
②哲学の問題について、例に即して考えることができるようになる。
③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、物ごとを考えることができるようになる。
④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について	シラバス・配布資料の確認
2	知識論（1）「知っている」とはどういうことか	配布資料の熟読
3	知識論（2）知識の伝統的定義に対する異議	配布資料の熟読
4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
5	人格の同一性（1）問題の所在と身体説	配布資料の熟読
6	人格の同一性（2）心理説の展開	配布資料の熟読
7	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
8	レポートの書き方	配布資料の熟読
9	心の哲学（1）実体二元論 vs.心脳同一説	配布資料の熟読
10	心の哲学（2）機能主義	配布資料の熟読
11	心の哲学（3）クオリア問題	配布資料の熟読
12	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
13	行為の哲学（1）古典的意志理論 vs.反因果説	配布資料の熟読
14	行為の哲学（2）因果説	配布資料の熟読
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読・レポート準備
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の二つを挙げておく。

野矢茂樹『哲学の謎』、講談社現代新書、1996 年
門脇俊介『現代哲学』、産業図書、1996年

学びの手立て

・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。
・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。
・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってほしい。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立つ。

評価

リアクションペーパーの提出状況（40%）　学期末レポート（60%）
・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。コメントや疑問を積極的に記入することが求められる。
・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べることが求められる。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「哲学Ⅱ」、「倫理学I」および「同Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」など。

※ポリシーとの関連性　人間と世界のあり方について、日常的な場面から疑問を立ち上げて哲学的に考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 哲学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火４	2
担当者 村井　忠康	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

哲学において議論されてきたさまざまな問題について、身近な例に即して考える。取り上げる問題はいまなお未決の問題ばかりだが、だからこそ、自分で考える意義があるとも言える。哲学の問題に触れながら、日々当たり前と思っている常識をいったん疑い、吟味することを通じて、主体的かつ論理的に考える能力を養うことが、この授業のねらいである。

メッセージ

授業中の発言やリアクションペーパーを通じて、自分の考えを言葉にしてほしい。最初は漠然とした考えや表現であっても、教師や出席者との対話を重ねることで次第に明確になっていくものである。

到達目標

①さまざまな哲学的立場について、ポイントを押さえた理解ができるようになる。
②哲学の問題について、例に即して考えることができるようになる。
③概念的・原理的なレベルにまで掘り下げて、物ごとを考えることができるようになる。
④根拠を挙げながら自分の理解や見解を論述できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：この講義で扱う「哲学」について	シラバス・配布資料の確認
2	懐疑論（1）デカルトの方法的懐疑	配布資料の熟読
3	懐疑論（2）懐疑論の分析	配布資料の熟読
4	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
5	知覚の哲学（1）知覚の隙間を埋める想像力という考え方	配布資料の熟読
6	知覚の哲学（2）知覚を可能にする想像力という考え方	配布資料の熟読
7	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
8	レポートの書き方	配布資料の熟読
9	自由意志の問題（1）決定論と自由	配布資料の熟読
10	自由意志の問題（2）両立論	配布資料の熟読
11	自由意志の問題（3）非両立論	配布資料の熟読
12	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
13	価値論（1）価値経験は錯覚であるという考え方	配布資料の熟読
14	価値論（2）価値経験は錯覚ではないという考え方	配布資料の熟読
15	リアクションペーパー応答	配布資料の熟読
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストはとくに指定しないが、毎回プリントを配布する。参考文献は、入手しやすさや読みやすさ、価格などを考慮しつつ適宜紹介する。ここでは、以下の二つを挙げておく。

野矢茂樹『哲学の謎』、講談社現代新書、1996 年
門脇俊介『現代哲学』、産業図書、1996年

学びの手立て

・授業時には、意識的に疑問点を見つけて書き留めること。さらに踏み込んで、どうして自分がそうした疑問をもつのか、その理由についても考えてみる。
・授業の復習では、扱った内容を振り返るだけでなく、自分なりに文章化して再現することが重要。これができるようになるにつれて、授業の理解度も上がってゆく。
・紹介する参考文献のうち、少なくとも一冊は考えながら読み切ってほしい。疑問のたびに立ち戻ることができる哲学書ができるなら、レポートの作成で壁にぶち当たったとき必ず役立つ。

評価

リアクションペーパーの提出状況（40%）　学期末レポート（60%）
・毎回授業の最後に10～15分ほどリアクションペーパー記入の時間を設ける。。授業内容についてのコメントや疑問を積極的に記入することが求められる。
・レポートでは具体的な問いを課すが、授業で紹介した哲学的立場への賛否をその理由とともに述べることが求められる。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「哲学1」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「人間文化課題研究Ⅰ」および「同Ⅱ」など。

※ポリシーとの関連性　健康・医療の歴史を通して日本社会の多様性を学習する。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本の歴史Ⅰ	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川　智生	１年	t.ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では健康および病気と社会の関係をテーマとする。日本人の健康観が歴史的にどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを考える機会としたい。なお、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、なるべく触れる予定である。

メッセージ

健康という概念は、時代や国・地域によって大きく異なる。それは、政治・社会・文化・宗教・環境のあり方を背景として、人間の身体および自然環境への認識や、病気に対する理解が多様だからである。本講義は日本史の未学習者も歓迎する。各回、必要に応じて基礎的な知識も提供する。

到達目標

①健康や病気に対する認識が固定的でないことを理解し、その背景にある社会的・自然的要素との関係を説明できる。
②現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
2	結核の歴史：人骨、労咳、女工	配布資料の復習、参考文献の確認。
3	同上	同上
4	同上	同上
5	天然痘の歴史：仏教、貴族社会、西洋科学の導入	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
9	ハンセン病の歴史：仏教医療、療養所、差別問題	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	ペストの歴史：港湾労働、都市計画、植民地統治	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	まとめ	前期分の復習
16	試験	前期分の復習

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用せず、レジュメを配布する。各論にかかわる文献はその都度紹介する。講義全体にかかわる参考文献は以下の通り。
・飯島渉『感染症の中国史：公衆衛生と東アジア』（中公新書）中央公論新社、2009年
・山本太郎『感染症と文明：共生への道』（岩波新書）岩波書店、2011年
・石弘之『図解 感染症の世界史』KADOKAWA、2021年

学びの手立て

①履修の心構え：以下について厳格に対処します。
・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着などは、その場で退室してもらいます。
・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。
・課外活動などによる欠席届を提出しても考慮の対象としません。
②学びを深めるために
・講義内容の骨格を記したレジュメを毎回配布し、あわせて、歴史資料、絵図、動画などの視聴覚資料をみてもらう。講義の説明内容、視聴覚資料をみて考えたこと、疑問に思ったことなどを各自でノートに記入すること。自分なりの記録方法と予習・講義・復習のサイクルを身に着けて欲しい。

評価

①ひとつのテーマにつき2回程度リアクション・ペーパーを実施する。5点×10回=50点）
②理解度を確認するため論述式の試験を学期末に実施する。（50点×1回=50点）。
以上の計100点満点で成績評価します。リアクション・ペーパーの提出回数が2/3に満たない場合は、試験の結果に関係なく不可となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「日本の歴史I」で扱わなかった疾病を対象に、「日本の歴史II」で同様のテーマの講義を行うので、できるだけ両方とも履修すること。「人間文化課題研究I」および「同II」で、同様のテーマを扱ったゼミを開講します。

※ポリシーとの関連性　健康・医療の歴史を通して日本社会の多様性を学習する。

［　　／一般講義］

科目基本情報			
科目名 日本の歴史Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 市川　智生	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	t.ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義では健康および病気と社会の関係をテーマとする。日本人の健康観が歴史的にどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを考える機会としたい。なお、欧米諸国および近隣のアジア諸国との比較、日本における沖縄の位置づけについても、なるべく触れる予定である。

メッセージ

健康という概念は、時代や国・地域によって大きく異なる。それは、政治・社会・文化・宗教・環境のあり方を背景として、人間の身体および自然環境への認識や、病気に対する理解が多様だからである。本講義は日本史の未学習者も歓迎する。各回、必要に応じて基礎的な知識も提供する。

到達目標

①健康や病気に対する認識が固定的でないことを理解し、その背景にある社会的・自然的要素との関係を説明できる。
②現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
2	コレラの歴史：国際貿易、軍隊、公衆衛生	配布資料の復習、参考文献の確認。
3	同上	同上
4	同上	同上
5	インフルエンザの歴史：「スペイン風邪」を通してみる日本社会	同上
6	同上	同上
7	同上	同上
8	健康と医療に関する映像資料の視聴と批評	同上
9	マラリアおよびフィラリアの歴史：風土病、熱帯医学、九州・沖縄	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	日本住血吸虫症の歴史：風土病、寄生虫症、環境改変	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	まとめ	後期分の復習
16	試験	後期分の復習

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用せず、レジュメを配布する。各論にかかわる文献はその都度紹介する。講義全体にかかわる参考文献は以下の通り。
・飯島渉『感染症の中国史：公衆衛生と東アジア』（中公新書）中央公論新社、2009年
・山本太郎『感染症と文明：共生への道』（岩波新書）岩波書店、2011年
・石弘之『図解 感染症の世界史』KADOKAWA、2021年

学びの手立て

①履修の心構え：以下について厳格に対処します。
・遅刻、私語、居眠り、イヤホン装着などは、その場で退室してもらいます。
・【重要】講義中はスマートフォンの操作を禁止します。必ずカバンにしまうこと。
・課外活動などによる欠席届を提出しても考慮の対象としません。
②学びを深めるために
・講義内容の骨格を記したレジュメを毎回配布し、あわせて、歴史資料、絵図、動画などの視聴覚資料をみてもらう。講義の説明、視聴覚資料をみて考えたこと、疑問に思ったことなどを各自でノートに記入すること。自分なりの記録方法と予習・講義・復習のサイクルを身に着けて欲しい。

評価

①ひとつのテーマにつき2回程度リアクション・ペーパーを実施する。（5点×10回=50点）
②理解度を確認するため論述式の試験を学期末に実施する。（50点×1回=50点）。
以上の計100点満点で成績評価します。リアクション・ペーパーの提出回数が2/3に満たない場合は、試験の結果に関係なく不可となります。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「日本の歴史II」で扱わなかった疾病を対象に、「日本の歴史I」で同様のテーマの講義を行うので、できるだけ両方とも履修すること。「人間文化課題研究I」および「同II」で、同様のテーマを扱ったゼミを開講します。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方をさまざまな形で（原理的に、歴史的に、現代社会との関わりで、感性を手がかりに）考察する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間文化課題研究Ⅰ	通年	金２	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳　正弘	２年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

(自身を構成員とする)人間・社会・世界のあり方に係わる諸問題について、「人間の学」としての倫理学の観点も参考に、参加者各自の問題意識を踏まえて、多面的に検討することを試みる。具体的には①倫理学の観点を簡単に学んだうえで②社会に関する多面的検討の一例としてデューイの公衆論の軌跡を追うとともに③(自身の将来や卒業論文等に繋がる)それぞれの問題意識を素材に議論を行う。

メッセージ

□授業第1回に履修に関するオリエンテーションを行う（履修にあたって参加は必須）。□授業は対面で行う。ただし、資料・レジュメ・レポートなどは、teamsを活用して配布／提出／共有する。□可能ならば、倫理(学)、公衆／公共性、受講者の将来／問題意識に係わるその他の問題等に関して、専門家を社会人特別講師として招聘する機会を設ける。

到達目標

①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。
②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。
③自身が問題意識をもつテーマについて、多面的な検討の上で、自身の考えを2000字程度で説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバスを熟読
2	各自の問題意識の発表・確認	自身の問題意識の整理
3	倫理(学)とはなにか	倫理(学)に関するイメージの整理
4	『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ①	『実践･倫理学』該当部分予習
5	『公衆とその諸問題』輪読①	『公衆とその諸問題』該当部分予習
6	受講生各自の問題意識①　見通し	問題意識の整理
7	受講生各自の問題意識②　見通し	問題意識の整理
8	『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ②	『実践･倫理学』該当部分予習
9	『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ③	『実践･倫理学』該当部分予習
10	『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ④	『実践･倫理学』該当部分予習
11	『公衆とその諸問題』輪読②	『公衆とその諸問題』該当部分予習
12	『公衆とその諸問題』輪読③	『公衆とその諸問題』該当部分予習
13	社会人特別講師による講話を踏まえた議論①　講師の都合も踏まえ実施回は変更する(以下同様)。	講話関連の調査･考察･整理
14	社会人特別講師による講話を踏まえた議論②	講話関連の調査･考察･整理
15	社会人特別講師による講話を踏まえた議論③	講話関連の調査･考察･整理
16	これまでのまとめの議論	これまでの議論の考察・整理
17	『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ⑤	『実践･倫理学』該当部分予習
18	『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ⑥	『実践･倫理学』該当部分予習
19	『公衆とその諸問題』輪読④	『公衆とその諸問題』該当部分予習
20	『公衆とその諸問題』輪読⑤	『公衆とその諸問題』該当部分予習
21	『公衆とその諸問題』輪読⑥	『公衆とその諸問題』該当部分予習
22	受講生各自の問題意識①　まとめ	問題意識の整理
23	受講生各自の問題意識②　まとめ	問題意識の整理
24	受講生各自の問題意識③　まとめ	問題意識の整理
25	受講生各自の問題意識④　まとめ	問題意識の整理
26	受講生各自の問題意識⑤　まとめ	問題意識の整理
27	受講生各自の問題意識⑥　まとめ	問題意識の整理
28	社会人特別講師による講話を踏まえた議論④	講話関連の調査･考察･整理
29	社会人特別講師による講話を踏まえた議論⑤	講話関連の調査･考察･整理
30	社会人特別講師による講話を踏まえた議論⑥	講話関連の調査･考察･整理
31	まとめの議論	これまでの議論を考察･整理

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など □児玉聡『実践･倫理学』勁草書房 □J.デューイ『公衆とその諸問題』筑摩文庫
	学びの手立て □「倫理学の観点」「デューイ公衆論」については、受講者が分担して事前にテキストの担当部分のレジュメを作成し、担当者の発表を受けて全員で輪読・議論を行う。 □「各自の問題意識」については、事前に、どのようなことについて、どのように考えてみたいと思っているか（もしくは、考えているか）を受講者それぞれがまとめて発表し、それを素材に全員で議論を行い、その後に、議論も踏まえてレポートを提出する。 □授業は対面で行うが、資料・レジュメ・レポートなどはteamsで配布／提出／共有する。
	評価 ①倫理学の観点についての理解(発表)や議論(質疑など｢ともに考える｣こと)への貢献２０％、②デューイ公衆論についての理解(発表)や議論(質疑など｢ともに考える｣こと)への貢献２０％、③自身の問題意識に関する発表やレポート４０％、④他者の問題意識についての理解や議論(質疑など｢ともに考える｣こと)への貢献２０％、という割合で評価する。ただし、受講者の人数や授業の進行状況等によって、授業の比重が変更になった場合は、受講者との協議も踏まえ割合を変更する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習、卒業演習

※ポリシーとの関連性　人間社会や文化について各自がこれまでに学んだ知識（歴史、地理、宗教、産業など）を基に考察する。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間文化課題研究Ⅰ	通年	火４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本　敏	２年	研究室：5-501 アポ：kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

固有言語による表現を通じて、多数派の文化のみならず、さまざまな人間の文化を知り、文化とコミュニケーションのあり方を探ることで、多文化共生の道を目指します。

メッセージ

1. 前後期の初日に注意事項があります。参加は必須です。
2. 現生人類が誕生してから約20万年と言われますが「文明」が誕生してからは5000年ほどしか経っていません。人間の文化的な営みについて「ことば」を通して、迫っていきたいと思います。

到達目標

人間の多様な文化に関心を持ち、それら文化を尊重して、「ことば」の側面からアプローチできる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバスの確認
2	人間文化の言語テキスト課題配布＆解説　（前期分）	資料検索
3	人間文化の言語テキストの解説	辞書、関係資料の精読
4	人間文化の言語テキスト課題配布＆解説　（後期分）	資料検索
5	人間文化の言語テキストの解説	資料精読
6	課題の選択・決定（個別・グループ）	資料精読
7	評価基準の解説と事例	資料精読
8	課題関連の基礎知識（宗教について）	資料精読
9	課題関連の基礎知識（宗教について）	資料精読
10	課題関連の基礎知識（日本の宗教）	資料精読
11	課題関連の基礎知識（集団・社会）	資料精読
12	課題関連の基礎知識（集団・社会）	資料精読
13	課題関連の基礎知識（日本の集団・社会）	資料精読
14	中間テスト（基礎知識の確認）	資料精読
15	課題の設定（後期に向けて）	課題（夏休み）
16	後期オリエンテーション	講義準備
17	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
18	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
19	設定した課題の進捗報告とディスカッション	資料精読
20	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
21	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
22	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
23	課題の作成（ppt/動画）	資料精読
24	進捗の確認・報告	課題の要約を作成
25	進捗の確認・報告	課題の要約を作成
26	課題のプレゼンと相互評価	課題の修正
27	課題のプレゼンと相互評価	課題の修正
28	課題の修正と完成	課題の修正
29	提出すべき課題の最終確認	課題の修正
30	提出すべき課題の最終確認	総復習
31	総復習	総復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。
	学びの手立て 「ことば」に関心のある人の受講を求めます。通年の発表形式の授業です。課題への取り組みは大学生レベルの執筆を心がけて下さい。
	評価 課題（グループ・個人）＝各40%、中間テスト（基礎知識の確認）＝20%

学びの継続	次のステージ・関連科目 コミュニケーション論（共通科目）あるいは多文化共生論（日本文化学科科目）

※ポリシーとの関連性　健康および病気をテーマとする映画や文学作品の鑑賞を通して、歴史・文化を主体的に学習し、日本社会の多様性を実感する。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間文化課題研究Ⅰ	通年	木３	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川　智生	２年	t.ichikawa@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

このゼミでは、健康および病気と社会の関係をテーマとする。映画や文学作品を鑑賞し、感じたこと・考えたことを議論することで、日本人の健康観がどのように形成されたのか、現代社会にどのように継承されているのかを論理的に考察する場としたい。

メッセージ

健康、病気、医療をテーマとした小説および映画を教室で鑑賞した後に批評を行います。受講者には前期および後期ともに2，3週ごとにの報告がまわってきます。発表および議論を練習する場にもなるので、積極的な参加を希望します。

到達目標

①健康、病気、医療、保健の歴史について、基本的な文献を読解し、疑問点を自ら調べることができる。
②健康、病気、医療、保健をテーマにした芸術作品（映画、小説）を鑑賞し、それを批評することができる。
③現代の健康や病気の問題を、歴史的な視点をもってとらえることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：講義計画の説明、受講に際しての注意	事前にシラバスを熟読のこと。
2	映画鑑賞・批評に関する文献精読	発表の準備、参考文献の確認。
3	同上	同上
4	同上	同上
5	同上	同上
6	健康と病気の歴史に関する文学作品あるいは映画作品を用いた批評と議論	発表の準備、参考文献の確認。
7	同上	同上
8	同上	同上
9	同上	同上
10	同上	同上
11	同上	同上
12	同上	同上
13	同上	同上
14	同上	同上
15	同上	同上
16	健康と病気の歴史に関する文学作品あるいは映画作品を用いた批評と議論	同上
17	同上	同上
18	同上	同上
19	同上	同上
20	同上	同上
21	同上	同上
22	同上	同上
23	同上	同上
24	同上	同上
25	同上	同上
26	同上	同上
27	同上	同上
28	同上	同上
29	同上	同上
30	同上	同上
31	通年のまとめ	通年分の確認

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。講義に先立って以下の文献から輪読する。 ・K.M.ゴックシクほか『映画で実践！アカデミックライティング』（小鳥遊書房、2019年） ・今泉容子『映画の文法―日本映画のショット分析―』改訂増補版（彩流社、2019年） ・丹治愛ほか『文学批評への招待』（放送大学教育振興会、2018年）
	学びの手立て ①履修の心構え ・第2週目からテキストの輪読を行うため、履修予定者は第1週目の講義に必ず出席すること。 ②学びを深めるために ・プレゼンテーションやディスカッションの方法については、適宜助言します。 ・疑問点の提示でも構わないので、発表後の議論に積極的に参加すること。 ・条件が整えば、1，2回程度、映画館での鑑賞会を計画します。
	評価 ①講義での発表、議論への参加程度（20点） ②前期レポート（40点×1回=40点） ※②をもとに、沖国大図書館主催の書評・映画評賞に応募していただきます。 ③後期レポート（40点×1回=40点） 以上の計100点満点で成績評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本の歴史I，II」で、同様のテーマを講義形式で開講します。

※ポリシーとの関連性　日本語で書かれた哲学・倫理学のテキストを読みながら、ゼミ形式で議論をおこなう。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間文化課題研究Ⅰ	通年	水４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井　忠康	２年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

5人の人を助けるために1人を犠牲にするのはよいことだろうか。いやそもそも、このようにして問われる「善悪」とは何を意味しているのだろうか。後者の問いを扱う分野はメタ倫理学と呼ばれる。昨年度に引き続きメタ倫理学の入門書を読みながら、倫理的思考の根本的前提に迫ってみたい。（テキストは昨年度読んだものとは異なる。）

メッセージ

まずは気軽に口を開くことから始めてほしい。自由に意見を出し合いながら哲学書を読む体験を通じて、一人で考えることだと思われがちな哲学が共同作業の一種でもありうることが実感できるはずである。

到達目標

倫理学を含む哲学の問題について考えるためには本を読む必要がある。しかし、読めばいいというものでもない。たくさん哲学書を読んで哲学者や哲学用語に詳しくなったとしても、それをもとに自分で考えることができなければ、哲学をしていることにはならない。それができるようになる一つの道は、「わかりそうだけどすぐにはわからない、でもわかりたい」と思える哲学の文章をじっくり何度も読むことだろう。そこで、この授業の目標は次の二点とする。

①書かれている内容を口頭で説明できようになる。
②ある程度まとまった文章で自分の見解を述べることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：授業の進め方の説明	シラバス・配布資料の確認
2	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
3	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
4	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
5	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
6	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
7	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
8	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
9	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
10	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
11	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
12	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
13	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
14	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
15	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
16	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
17	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
18	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
19	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
20	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
21	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
22	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
23	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
24	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
25	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
26	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
27	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
28	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
29	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
30	レジュメ発表と議論	テキスト総復習
31	予備日	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 佐藤岳詩『メタ倫理学入門－道徳のそもそもを考える』、勁草書房、2017年。 ひとまずコピーを配布するが、継続して出席する者はテキストを入手することが望ましい。
	学びの手立て ・議論とは、一緒に何かを作り出すことだという意識をもってほしい。お互いの間違いを修正し合うことを通じて、一人では思いもよらなかった結論に達するなら、それは共同作業を成し遂げることでもある。 ・前期の前半は輪読形式で行う。この間にテキストの読み方のコツを掴んでもらい、以後は毎回担当者が事前にレジュメを作成し、それをもとにテキストの内容を報告する発表形式で行う。（履修者が少ない場合は輪読形式をベースとして、まとめのレジュメの提出を求めることを考えている。）
	評価 平常点100% ただし、最低一回のレジュメ発表ないし提出が必要。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「哲学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のあり方をさまざまな形で（原理的に、歴史的に、現代社会との関わりで、感性を手がかりに）考察する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 人間文化課題研究Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	通年	金２	4
担当者 小柳　正弘	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

(自身を構成員とする)人間・社会・世界のあり方に係わる諸問題について、「人間の学」としての倫理学の観点も参考に、参加者各自の問題意識を踏まえて、多面的に検討することを試みる。具体的には①倫理学の観点を簡単に学んだうえで②社会に関する多面的検討の一例としてデューイの公衆論の軌跡を追うとともに③(自身の将来や卒業論文等に繋がる)それぞれの問題意識を素材に議論を行う。

メッセージ

□授業第1回に履修に関するオリエンテーションを行う（履修にあたって参加は必須）。□授業は対面で行う。ただし、資料・レジュメ・レポートなどは、teamsを活用して配布／提出／共有する。□可能ならば、倫理(学)、公衆／公共性、受講者の将来／問題意識に係わるその他の問題等に関して、専門家を社会人特別講師として招聘する機会を設ける。

到達目標

①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。
②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。
③自身が問題意識をもつテーマについて、多面的な検討の上で、自身の考えを2000字程度で説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

【各回のテーマ】
１．オリエンテーション　２．各自の問題意識の発表・確認　３．倫理(学)とはなにか　４．『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ①　５．『公衆とその諸問題』輪読①　６－７。受講生各自の問題意識①②　見通し　８－１０．『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ②③④　１１－１２．『公衆とその諸問題』輪読②③　１３－１５．社会人特別講師による講話を踏まえた議論①②③　講師の都合も踏まえ実施回は変更する(以下同様)。　１６．これまでのまとめの議論　１７－１８．『実践･倫理学』を手がかりに、現代の問題を素材に、倫理学の観点を学ぶ⑤⑥　１９－２１．『公衆とその諸問題』輪読④⑤⑥　２２－２７．受講生各自の問題意識①②③④⑤⑥　まとめ　２８－３０，社会人特別講師による講話を踏まえた議論④⑤⑥　３１．まとめの議論

【各回に係る時間外学習の内容】
１．シラバスを熟読　２．自身の問題意識の整理　３．倫理(学)に関するイメージの整理　４．『実践･倫理学』該当部分予習　５．『公衆とその諸問題』該当部分予習　６－７．問題意識の整理　８－１０．『実践･倫理学』該当部分予習　１１－１２．『公衆とその諸問題』該当部分予習　１３－１５．講話関連の調査･考察･整理　１６．これまでの議論の考察・整理　１７－１８．『実践･倫理学』該当部分予習　１９－２１．『公衆とその諸問題』該当部分予習　２２－２７．問題意識の整理　２８－３０．講話関連の調査･考察･整理　３１．これまでの議論を考察･整理

テキスト・参考文献・資料など

□児玉聡『実践･倫理学』勁草書房
□J.デューイ『公衆とその諸問題』筑摩文庫

学びの手立て

□「倫理学の観点」「デューイ公衆論」については、受講者が分担して事前にテキストの担当部分のレジュメを作成し、担当者の発表を受けて全員で輪読・議論を行う。
□「各自の問題意識」については、事前に、どのようなことについて、どのように考えてみたいと思っているか（もしくは、考えているか）を受講者それぞれがまとめて発表し、それを素材に全員で議論を行い、その後に、議論も踏まえてレポートを提出する。
□授業は対面で行うが、資料・レジュメ・レポートなどはteamsで配布／提出／共有する。

評価

①倫理学の観点についての理解(発表)や議論(質疑など「ともに考える」こと)への貢献２０％、②デューイ公衆論についての理解(発表)や議論(質疑など「ともに考える」こと)への貢献２０％、③自身の問題意識に関する発表やレポート４０％、④他者の問題意識についての理解や議論(質疑など「ともに考える」こと)への貢献２０％、という割合で評価する。ただし、受講者の人数や授業の進行状況等によって、授業の比重が変更になった場合は、受講者との協議も踏まえ割合を変更する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習、卒業演習

※ポリシーとの関連性　日本語で書かれた哲学・倫理学のテキストを読みながら、ゼミ形式で議論をおこなう。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	人間文化課題研究Ⅱ	通年	水４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村井　忠康	３年	研究室5503 t.murai@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

5人の人を助けるために1人を犠牲にするのはよいことだろうか。いやそもそも、このようにして問われる「善悪」とは何を意味しているのだろうか。後者の問いを扱う分野はメタ倫理学と呼ばれる。昨年度に引き続きメタ倫理学の入門書を読みながら、倫理的思考の根本的前提に迫ってみたい。（テキストは昨年度読んだものとは異なる。）

メッセージ

まずは気軽に口を開くことから始めてほしい。自由に意見を出し合いながら哲学書を読む体験を通じて、議論というものが共同作業の一種であることが実感できるはずである。

到達目標

倫理学を含む哲学の問題について考えるためには本を読む必要がある。しかし、読めばいいというものでもない。たくさん哲学書を読んで哲学者や哲学用語に詳しくなったとしても、それをもとに自分で考えることができなければ、哲学をしていることにはならない。それができるようになる一つの道は、「わかりそうだけどすぐにはわからない、でもわかりたい」と思える哲学の文章をじっくり何度も読むことだろう。そこで、この授業の目標は次の二点とする。

①書かれている内容を口頭で説明できようになる。
②ある程度まとまった文章で自分の見解を述べることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス：授業の進め方の説明	シラバス・配布資料の確認
2	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
3	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
4	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
5	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
6	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
7	輪読	テキストの該当箇所を事前に読む
8	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
9	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
10	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
11	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
12	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
13	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
14	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
15	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
16	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
17	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
18	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
19	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
20	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
21	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
22	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
23	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
24	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
25	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
26	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
27	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
28	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
29	レジュメ発表と議論	テキストの該当箇所を事前に読む
30	レジュメ発表と議論	テキスト総復習
31	予備日	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 佐藤岳詩『メタ倫理学入門－道徳のそもそもを考える』、勁草書房、2017年。 ひとまずコピーを配布するが、継続して出席する者はテキストを入手することが望ましい。
	学びの手立て ・議論とは、一緒に何かを作り出すことだという意識をもってほしい。お互いの間違いを修正し合うことを通じて、一人では思いもよらなかった結論に達するなら、それは共同作業を成し遂げることでもある。 ・前期の前半は輪読形式で行う。この間にテキストの読み方のコツを掴んでもらい、以後は毎回担当者が事前にレジュメを作成し、それをもとにテキストの内容を報告する発表形式で行う。（履修者が少ない場合は輪読形式をベースとして、まとめのレジュメの提出を求めることを考えている。）
	評価 平常点100% ただし、最低一回のレジュメ発表ないし提出が必要。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「哲学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「倫理学Ⅰ」および「同Ⅱ」、「エコロジーの思想」、「環境の倫理学」など。

※ポリシーとの関連性　フェミニズムという思想を通して社会をみる。そのことによって自分らしい生き方と社会を変革する力をつける。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 フェミニズム思想	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水１	2
担当者 -具志堅　邦子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	ガイダンスにおいて説明します。	

学びの準備

ねらい

フェミニズムが問題にしてきたことをキーワードを中心に理解し、支配されない/支配しない社会の構築をめざす。

メッセージ

フェミニズムはみんなのもの！

到達目標

フェミニズム思想を学ぶことによって、視野を広げる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、概説	シラバスをよく読んでください
2	家父長制を理解する	講義テキストを熟読すること
3	魔女狩りとフェミニズム	講義テキストを熟読すること
4	市民革命とフェミニズム	講義テキストを熟読すること
5	ロマンティックラブ・イデオロギーと母性イデオロギー	講義テキストを熟読すること
6	第一波フェミニズムと第二波フェミニズム	講義テキストを熟読すること
7	ポストフェミニズム と第三波フェミニズム	講義テキストを熟読すること
8	ホモフォビアとミソジニー	講義テキストを熟読すること
9	男らしさのボックスからの解放	講義テキストを熟読すること
10	象徴としての女性像	講義テキストを熟読すること
11	既存のイメージからの解放	講義テキストを熟読すること
12	日本社会とフェミニズム(1)	講義テキストを熟読すること
13	日本社会とフェミニズム(2)	講義テキストを熟読すること
14	沖縄社会とフェミニズム	講義テキストを熟読すること
15	フェミニズムの現在	講義テキストを熟読すること
16	レポート課題（テスト）	半期間の総復習

テキスト・参考文献・資料など

講義テキストはwebサイト（GLEXA）から送信し、参考文献は講義テキストにて適宜紹介する。

学びの手立て

自分の問題や問いと向かい合いながら受講してください。毎回の受講の積み重ねが力になります。なお、授業計画は学生のコメントの内容から差し替えたり順番が変更する可能性もあります。その場合はポータルの授業連絡でお知らせします。

評価

毎回の講義において課題を与える。課題は指定されたwebサイト（GLRXA）から提出すること。そのことが授業参加度になる。授業参加度（80%）と16回目の課題（20%）を基本として評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目、次のステージ：「女性と文化」「女性と歴史」「ジェンダー論」「哲学」など

※ポリシーとの関連性　文学を通して自己と他者を知る

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	文学Ⅰ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-孫　恵仁	１年	ptt1169アットマークokiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

文学作品は異文化との出会いの場を提供してくれます。この授業では、言語、地理、文化、時代の境界を行き来した作家および作品を取り上げます。それらが見せてくれる世界観に接し、新しい見方ができるようになります。

メッセージ

文学の作品に触れ、その面白さ、楽しさがわかるような時間になればと思います。異なる生き方や考え方を探してみましょう。

到達目標

「越境文学」について知ることができる。作家や作品をあげることができる。作品の内容を説明し、それについて自分の意見を述べることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを読む
2	境界を超える文学とは何か	講義内容の予習・復習
3	異文化としての微笑みを理解する	講義内容の予習・復習
4	日本の物語でありながら日本の物語ではない	講義内容の予習・復習
5	「我々」とは誰なのか	講義内容の予習・復習
6	「我々」とは誰なのか	講義内容の予習・復習
7	家族の意味を考える	講義内容の予習・復習
8	家族の意味を考える	講義内容の予習・復習
9	「あなたは〇〇でしょう」	講義内容の予習・復習
10	「あなたは〇〇でしょう」	講義内容の予習・復習
11	「虫に変わっているのに気付いた」	講義内容の予習・復習
12	旅する言葉	講義内容の予習・復習
13	旅する言葉	講義内容の予習・復習
14	厳しい時代の中での愛とユーモア	講義内容の予習・復習
15	厳しい時代の中での愛とユーモア	講義内容の予習・復習
16	テスト	テストの振り返り

テキスト・参考文献・資料など

プリント教材を使用する。
参考文献：沼野允義編著『世界は文学でできている』（光文社、2012年）

学びの手立て

出席し理解することが大事です。そこから考えたことをリアクション・ペーパーに書いてください。

評価

平常点（授業参加、リアクション・ペーパー）40点、学期末試験（場合によってはレポート）60点。単位修得のためには授業の3分の2以上の出席を義務付けます。

学びの継続

次のステージ・関連科目

文学Ⅱ

※ポリシーとの関連性　フランス語圏の文学を通して、日本とは異なる文化に培われた人間の「感性」に触れます。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 文学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火３	2
担当者 上江洲　律子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	沖国大ポータルのGmailにて質問してください。	

学びの準備

ねらい

歴史が事実の記録だとすれば、文学はその時代を生きた人間の「感性」の記録だと言えるでしょう。この授業ではフランス語圏の文学を１つの窓として、私たちとは異なる文化を背景とする人々の「ものの見方」に触れ、また、その時代による変遷を追いながら人間の在り方への考察を深めることを目指します。

メッセージ

読書は旅することに似ています。フランス語圏の本を読むことを通して、「時」と「場」を越えた世界を旅してみましょう。ただし、その「冒険」に、手ぶらで旅立てる人もいれば、旅の装備が必要な人もいます。どちらの人も、その本の「扉」を開く前に、この授業で旅の準備を整えてみませんか。

到達目標

次の３つの点を習得することを目標とします。
①フランス語圏の文学において、時代を代表する作品の概要を把握すること。
②その作品が生み出された時代的な背景や作者自身の生き方についての知識を獲得すること。
③その作品から浮かび上がる時代的な眼差しへの理解を深めること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスの再確認と授業の準備
2	フランス文学の背景についての紹介（１）	課題の作成
3	フランス文学の背景についての紹介（２）	課題の作成
4	１６世紀：ラブレー『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』（１）	課題の作成
5	１６世紀：ラブレー『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』（２）	課題の作成
6	１７世紀：ペロー『昔話集』（１）	課題の作成
7	１７世紀：ペロー『昔話集』（２）	課題の作成
8	１８世紀：ベルナルダン・ド・サン＝ピエール『ポールとヴィルジニー』（１）	課題の作成
9	１８世紀：ベルナルダン・ド・サン＝ピエール『ポールとヴィルジニー』（２）	課題の作成
10	１９世紀：ユゴー『ノートル＝ダム・ド・パリ』（１）	課題の作成
11	１９世紀：ユゴー『ノートル＝ダム・ド・パリ』（２）	課題の作成
12	２０世紀：プルースト『失われた時を求めて』（１）	課題の作成
13	２０世紀：プルースト『失われた時を求めて』（２）	課題の作成
14	２０－２１世紀：クリストフ『悪童日記』（１）	課題の作成
15	２０－２１世紀：クリストフ『悪童日記』（２）	課題の作成
16	まとめ	課題の作成

テキスト・参考文献・資料など

授業内で必要に応じてプリントを配付します。
※参考文献についても授業内で必要に応じて紹介します。

学びの手立て

①「履修の心構え」
作品を紹介する際には日本語に翻訳された本を使用します。受講にあたりフランス語の学習経験の有無を問いませんので、興味のある方は受講してください。
②「学びを深めるために」
何よりも大切なことは、実際に本を手に取り「読む」ことです。その繰り返しを通して本の中から多くのことを汲み取ることのできる力を身につけていきましょう。

評価

最終課題（書評）の得点（60%）と平常点（40%）で評価します。
※ただし、単位修得のためには授業の３分の２以上の出席を義務づけます。

学びの継続

次のステージ・関連科目

今後、さらにさまざまな角度から人間の在り方についての考察を深めると同時に、日本とは異なる文化であるヨーロッパへの関心を高めて頂きたいと思います。そのための関連科目として、人間文化課題研究Ⅰ・Ⅱ（演習）やヨーロッパ研究Ⅰ・Ⅱ（講義）、国際理解課題研究Ⅰ・Ⅱ（演習）があります。

※ポリシーとの関連性　人間や文化のありかたを、戦争の歴史と平和という視点から学ぶ科目　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	平和と文化	後期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-吉川　由紀	１年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

人権、平和、戦争などをテーマに、多くの人々の人生に触れながら、他者の語りに耳を傾け、理解し、自身の言葉で伝える力を養います。

メッセージ

簡単には解決方法や答えが見いだせない、この社会が抱える問題を、さまざまな切り口から考えてみませんか。講義では、現場で活動している人の報告や体験者の、生の証言を聴く時間ももちます。大学生のいまこそ、考える力を一緒に培いましょう。

到達目標

レポートは、オーラル・ヒストリー（他者の経験と認識を聴き、記憶を記録する作業）の実践です。語りを聴く力、それを理解し第三者に伝える力を鍛えると同時に、他者を尊重しようとする力や想像力を育みます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクションー隣で生きている人の「歴史」に耳を傾ける	レポートテーマと証言者の決定
2	沖縄戦体験者の声を聴く、記録する	同上
3	慰霊塔／慰霊碑に聴く	同上
4	場所に聴くー戦争遺跡を通して	聴き取り項目の検討
5	土に聴くー遺骨収集の現場から	同上
6	対馬丸事件に学ぶ①　事件を忘れないために	同上
7	対馬丸事件に学ぶ②　海の戦争の実態	聴き取り、文字化、再聴き取り
8	対馬丸事件に学ぶ③　体験者の証言を聴く	同上
9	ハンセン病問題の歴史を糧に①　終生絶対隔離とは何か	同上
10	ハンセン病問題の歴史を糧に②　沖縄のハンセン病差別被害	同上
11	ハンセン病問題の歴史を糧に③　差別と向き合って生きる	同上
12	ハンセン病問題の歴史を糧に④　回復者の証言を聴く	同上
13	何をどのように伝えるかー語りだす遺品	まとめ
14	加害と被害を抱えて生きるー満州移民の歴史とは	同上
15	まとめー実践から見えてくるもの	他の学生のまとめを共有
16	総括	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しません。毎回レジュメを配布し、動画やスライドを用いて授業をすすめます。

【参考文献】

『オキナワを平和学する』石原昌家・仲地博編、法律文化社、2005年

『新版ライフヒストリーを学ぶ人のために』谷富夫編、世界思想社、2008年

『沖縄戦を知る事典』吉浜忍・林博史・吉川由紀編、吉川弘文館、2019年

その他は、講義の中で適宜紹介します。

学びの手立て

県内外・国内外を問わず、戦争・平和・人権問題を扱った資料館・博物館を積極的に見学すると、理解が深まります。また、証言集など聴き書きをまとめた文献に目を通すことも有意義です。

評価

コメントシートの提出と内容（授業参加、理解・疑問の整理。30%）とレポート（70%）を総合して行います。

10回以上の出席がないと、レポートは採点しません。

レポートのテーマ及び執筆要綱は第１回目の講義で発表しますが、社会状況やそれに伴う授業形態の変化によって、レポートテーマを変更する場合もありますので注意してください。

学びの継続

次のステージ・関連科目

平和と文化について、人間文化科目群だけではなくその他の科目群の科目で幅広く学ぶとともに、日々の暮らしの中で平和と文化について考え続けてほしい。

※ポリシーとの関連性　教養科目として、受講者諸君の普遍的人間形成および研究能力の開発の一助となることを目標としています。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 倫理学Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木４	2
担当者 -大城　信哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備

ねらい

本講座は、大学で学びはじめた人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。倫理学とは道徳の学問ですが、正しいとか善いとかは感情の問題にすぎないのではないかと思う人も多いでしょう。何が正しいことか善いことかについては先人も多く考えつづけてきました。その一端を教室で紹介します。これを学ぶことが受講者諸君が本格的に考えるきっかけになることを望んでいます。

メッセージ

予備知識は特に必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲を期待しています。これから学ぶ人にとって「知らない」ということは悪いことではありません。これから知れば良いのです。ただ、自分が判っているかいないか考えないのは良くありません。新鮮な気持ちで講義に取り組み、自分が判っているかどうか検討する姿勢をつねにたもちながら、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。

到達目標

・倫理という語の本来の意味から、道徳的であるとはどういうことかまでを理解する。
・現代のさまざまな倫理学的立場の違いを知り、自分でも説明できるようになる。
・倫理的なことがらについて、自分自身のしっかりした考えを持てるようにする。
・広く好奇心を持って、いままで知らなかったことに挑戦する心構えを身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
3	倫理という語の成り立ちについても考える。	事典類にあたってみるように。
4	人文科学を学ぶことの意義について考える。	学生同士での討議を勧めたい。
5	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
6	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
7	カントの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
8	功利主義の思想について考える。	身近な事例で考えてみる。
9	カント説と功利主義の対立点を考える。	講義後の復習をするように。
10	正義とは何かを考える。	身近な事例で考えてみる。
11	自由について考えてみる。	身近な事例で考えてみる。
12	共同体の意義について考える。	自分の立場にあてはめてみる。
13	徳について考える。	身近な事例で考えてみる。
14	あらためて正義について考える。	講義後の復習をするように。
15	現代社会の倫理問題を考える。	講義後の復習をするように。
16	期末考査。	自分の理解を確認する

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。直接教室で使用する以上の参考文献は必要に応じて教室で指示しますが、まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペイパー）ことを考えていますが（これについての詳細は講義第1回目に受講生諸君と話し合って決めることにします）、ここに受講者諸君の資料の理解も反映されることになります。

学びの手立て

教養科目ですので初学者を対象としています。新鮮な気持ちで取り組んでほしいと思います。こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価は厳正にします（4年生だからなどの理由で甘くしてほしいという人がときどきいますがそういうことは不公平になるのでしません）が、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように努めてほしいと考えています。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。

評価

最終回に試験をして、その内容によって評価します。平常点を加味するかは受講者の人数にもよりますが（大人数だと全員の様子を把握できないため）、積極的に参加してほしいと思います。基本的には試験のみの評価ですが（ですから数値化するとしたら試験100%です）、初回講義時に評価基準について諸君に意見があれば多少聞くことはできるかもしれません。何か考えがあれば遠慮なく言ってください。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席自体を特に評価することはありません。

学びの継続

次のステージ・関連科目

大学で学ぶ学問は直接すぐに役立つものではありません。しかしそこには先人から受け継がれたたくさんの宝が埋もれ隠されています。学問に触れて貴重なものを得られるか退屈なだけでしかないかは受講者諸君次第です。本講座もこのあと諸君が学問の楽しさを得るための一助となりたいと心から願っています。

※ポリシーとの関連性　教養科目として、受講者諸君の普遍的人間形成および研究能力の開発の一助となることを目標としています。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 倫理学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木４	2
担当者 -大城　信哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備

ねらい

本講座は、大学で学び始めた人たちに（とはいえすでに半年は学んでいるのですが）、特に現代の応用倫理学の一部を具体的に伝えることを目的としています。多くの人々がともに生きる現実社会では、何が正しいかの合意を慣習に任せずあらたに作らなくてはなりません。その努力の一端を紹介します。これを学ぶことが受講者諸君が本格的に考えるきっかけになるよう望んでいます。

メッセージ

予備知識は特に必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲を期待しています。これから学ぶ人にとって「知らない」というのは悪いことではありません。これから知れば良いのです。ただ、自分が判っているかいないか考えないのは良くありません。新鮮な気持ちで講義に取り組み、自分が判っているかどうか検討する姿勢をつねにたもちながら、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。

到達目標

・現代の倫理的問題にどのようなものがあるかを知り、自分でも考えられるようになる。
・現代の具体的な問題についてのさまざまな倫理学的立場の違いを説明できるようになる。
・倫理的なことがらについて、自分自身のしっかりした考えを持てるようにする。
・広く好奇心を持って、いままで知らなかったことに挑戦する心構えを身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
2	現代の倫理的問題について考える。	講義後の復習をするように。
3	自由と功利性とについて考える。	講義後の復習をするように。
4	共同性と社会習慣とついて考える。	講義後の復習をするように。
5	医療と福祉Ⅰ　自己決定について。	自分の考えを作ってみる。
6	医療と福祉Ⅱ　インフォームド・コンセント。	自分の考えを作ってみる。
7	医療と福祉Ⅲ　パターナリズム。	自分の考えを作ってみる。
8	環境と人間Ⅰ　世代間の問題。	自分の考えを作ってみる。
9	環境と人間Ⅱ　自然と人間。	自分の考えを作ってみる。
10	環境と人間Ⅲ　物言わぬものら。	自分の考えを作ってみる。
11	教育と社会Ⅰ　教育は何のためにあるのか。	自分の考えを作ってみる。
12	教育と社会Ⅱ　誰が何を教育すべきか。	自分の考えを作ってみる。
13	国家と社会Ⅰ　刑罰の意味。	自分の考えを作ってみる。
14	国家と社会Ⅱ　戦争と平和。	自分の考えを作ってみる。
15	国家と社会Ⅲ　理想と現実。	自分の考えを作ってみる。
16	期末考査。	自分の理解を確認する。

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。直接教室で使用する以上の参考文献は必要に応じて教室で指示しますが、まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペイパー）ことを考えていますが（これについての詳細は講義第1回目に受講生諸君と話し合って決めることにします）、ここに受講者諸君の資料の理解も反映されることになります。

学びの手立て

教養科目ですので初学者を対象としています。新鮮な気持ちで取り組んでほしいと思います。こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価は厳正にします（4年生だからなどの理由で甘くしてほしいという人がときどきいますがそういうことは不公平になるのでしません）が、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するように努めてほしいと考えています。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとから確認します。

評価

最終回に試験をして、その内容によって評価します。平常点を加味するかは受講者の人数にもよりますが（大人数だと全員の様子を把握できないため）、積極的に参加してほしいと思います。基本的には試験のみの評価ですが（ですから数値化するとしたなら試験100%です）、初回講義時に評価基準について諸君に意見があれば多少聞くことはできるかもしれません。何か考えがあれば遠慮なく言ってください。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席自体を特に評価することはありません。

学びの継続

次のステージ・関連科目

大学で学ぶ学問は直接すぐに役立つものではありません。しかしそこには先人から受け継がれたたくさんの宝が埋もれ隠されています。学問に触れて貴重なものを得られるか退屈なだけでしかないかは受講者諸君次第です。本講座もこのあと諸君が学問の楽しさを得るための一助となりたいと心から願っています。